

第7回府中市次世代育成支援行動計画検討協議会 議事要旨

【府中市における子育て支援の課題について】

求職中の親の子どもを預けることができるようにすることが課題である。

0～2歳児の母親の孤立を防ぐために、親子の交流の場を積極的に設けていくことが必要。子育てに関する情報がある程度集約されて、その情報が各地域で入手することができる体制を組んでいくことが必要。

小学生以上の子どもの居場所作りが課題である。

子育て支援にかんして、ボランティア、NPO、民間組織をどう協働していくかが課題。

【情報提供のあり方について】

教育の分野に関しても、どこかに行けば必要な情報やそれを得る別の場所を教えてくれる窓口が必要。

小学生以上の子どもについては、学校が地域の情報発信源となり得るが、校長や教頭の熱心さでかわってくるのではないか。

【子育て支援の制度のあり方について】

制度が整備されているか否かより機能しているかどうかを判断することが必要。

本当に支援が必要ない人は、自分から出向いていくことはない。そういう人たちを救っていくことが必要。

【NPOについて】

NPOは自分たちの理念に基づいて活動しているので、子育て支援の部分で行政と関わりを持って、それは協働という形になる。

NPOの活動で子どもを外で遊ばせることをやったら好評だったそうだ。このようなことをもっと広げていけないか。

市民にNPOが浸透していくことが大切。一緒にかかわり育てていくという位置づけが、政策の中に必要。

ポップコーンをNPOが行うこともできるか？

【ポップコーンについて】

ポップコーンのボランティアは、基本的には無償であるが足代は出る。それが予算上限りがあるため、ボランティアとして参加したくても参加することに二の足を踏む人もいる。

ポップコーンはボランティアによる運営であるが、ボランティアには何が期待されているのかが明確ではない。

【子どもの遊び場について】

子どもが少ないから広域で子どもが集まる場や接点が必要なのではないか。意図的に子どもが自然と集まる場、空間を作っていくことが必要である。

公園など、行政が主導となると管理志向の強いものになってしまう。

子どもは、ちょっと危険で冒険できるような場を好む。

【安心できる環境について】

子どもが安心して活動できるようにするには近所の目が重要。

緊急避難の家がちゃんと機能しているかどうかの点検が必要。

緊急避難の家に関しては、マニュアル等が整備されて機能している。

人が代わっても機能するよう、オープン化した誰でもわかるシステムを作ることが必要。

以上